

親善野球試合で 韓国を訪問して

硬式野球部部長 高田 駒次郎

四月十四日から二十五日まで十日間、九州六大学野球連盟選抜チーム（役員八名、選手十九名）を引率して、韓国のソウルに遠征した。

本学からは、当連盟の理事長の私（団長）、硬式野球部監督の野本益寛文学部助手（コーチ）、商学部三年尾石俊美（投手）、そして当連盟会長という立場から船越学長（顧問）も二十一日から参加された。

韓国に行つてまず感じたことは、完全な戦時体制にあるということである。夜は〇時から四時まで外出禁止であり、高層ビルの屋上には高射砲が据えられており、また十五日は北鮮金日成大統領の誕生日とかで、防空演習も行なわれていた。この点、日本は誠に住みよい国である。しかし、ソウルの街は非常に活気があり、車も多く、地下鉄工事が進められていた。

滞在中、韓国教会の礼拝に出席した。十五日の日曜日にバプテスト教会をホテルのフロントで探しても見つからず困っているところ、近くの大学で練習から帰ってきた尾石投手が、「先生、東国大学の近くにバプテストと書かれた

教会がありましたよ」という。行くつて見ると間違ひなく Seoul Central Baptist Church と書かれており、さすがは本学の学生である、変なところで感心させられた。

教会の建物は非常に古風なものであり、朝鮮戦争後に、アメリカの従軍牧師、韓国の牧師やクリスチャンの協力で建てられたそうである。会堂の二階からざっと数えると、二七〇から八〇人位の出席者があった。説教は韓国語でさっぱり解らなかつたが、私の知っている讃美歌を韓国語で聞いた時には、何ともいえないシンとくるものがあつた。

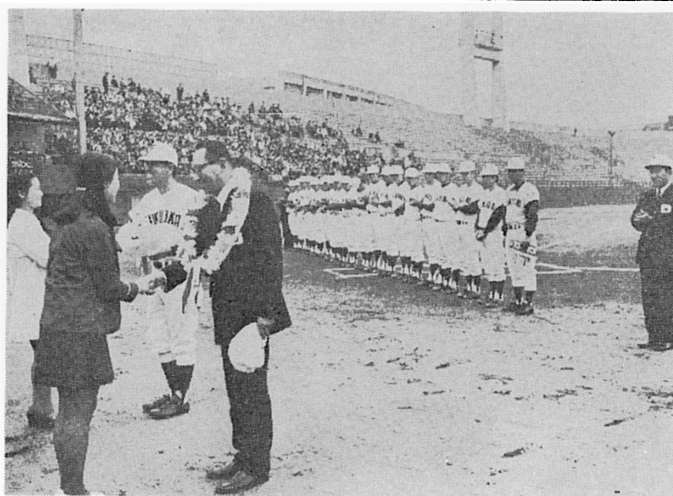
礼拝後、牧師の趙考勲氏に会つたが、牧師はルイヴィルの神学校出身で、本学の神学部を訪問したことがあるとのことである。西南学院教会の木村牧師、鳥飼教会の鍋倉牧師、神学部の三善先生、中村先生、尾崎先生なども知合いであつた。

二十三日には船越学長もすでに見えられていたので、一緒に礼拝に出席した。二人共壇上に立たされて紹介され、船越先生が韓国遠征の目的や日本の教会の現状など

について報告された。その時通訳をしてくれたのが延世大学の李大聖教授で、この人は本学の唐木田教授の知人であつた。

野球はプロ野球はないが非常に盛んであり、私たちはソウル球場で九試合行なつたが、平日でも五千人、日曜日は二万人以上の入場者があり、テレビ放送も行なわれている。

成績は韓国大学チームと四勝二引分、実業団と一勝二引分、計五勝〇敗四引分、一敗もしなかつたといふことは、過去韓国に遠征した日本チームでは最高の成績といふことである。最後に、明年度から、毎年交互に親善試合を開くことができるよう努力したいと思つて（商学部助教）



日韓新善野球で花束を受け取る高田団長